



未来をつくる！ 若手の先生方の実践を紹介します！

## 新星キラリ！みんなが輝く授業力アッププロジェクト

千葉県には、子どもたちの「学びの未来」を支えるために、よりよい授業を目指して、日々の授業改善に取り組んでいる先生方が多くいらっしゃいます。今回は、令和7年度の学校訪問で出会った、若手の先生方の実践を紹介します。

### 新星キラリ！

- ① 盆子原良仁 先生 (小学校・体育科・3年生)
- ② 岩田ひかる 先生 (小学校・生活科・1年生)
- ③ 石井かおり 先生 (小学校・国語科・2年生)
- ④ 榊 勇太 先生 (小学校・体育科・4年生)
- ⑤ 木内 美歩 先生 (小学校・生活科・1年生)
- ⑥ 塚本 愛理 先生 (小学校・道徳科・1年生)
- ⑦ 矢羽 勇樹 先生 (中学校・技術・家庭科・3年生)

### ～紹介シートの見方～



氏名  
 学校名  
 (R7年度所属校)  
 経験年数  
 (R7年度末時点)

～授業者のコメント～

授業者に、工夫した点、力を入れた点を聞きました。

小〇年 〇〇科 単元 「 \_\_\_\_\_ 」

本時の目標

.....  
 .....

「実践モデルプログラムを活用した授業のための  
 チェックシート」(次頁参照)に照らし合わせ  
 て、授業の良かった点を指導主事が紹介します。

授業を参観した指導主事からのコメント

.....

.....

～授業者のコメント～

授業者に、今後の目標や目指す授業について聞きました。



未来をつくる！若手の先生方の実践を紹介します！

## 新星キラリ！みんなが輝く授業力アッププロジェクト



盆子原良仁  
先生

佐倉市立  
佐倉小学校

経験年数 9年  
(令和7年度末時点)

### 授業者のコメント(授業を工夫した点、力を入れた点)

児童が自己やチームの課題を主体的に見いだせるよう、ポイントカードやICTを活用し、振り返りと作戦立案を重視した学習過程を構成しました。また、安心して参加できるルールを工夫したメインゲームを設定し、児童の技能差に関わらず全員が達成感を味わえるようにしました。

《URL》 <https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/kj-hokusou/shidoushitsu/documents/2026kirari01.pdf>

学習指導案  
はこちら



小3年 体育科 「ボール運動」 ゴール型 セストボール  
本時の目標

- 自己やチームの課題を見出し、仲間や自己の考えを他者へ伝え、その課題解決のための練習を選ぶことができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- 仲間の考えや取組を認めたり、勝敗を受け入れたりできるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

### 授業を参観した指導主事から

実践モデルプログラムの観点から

#### 「見いだす」

場の準備や健康観察の場面から、児童のやる気や興味を引き出す言葉かけが見られました。整列の並び方についても注意を促すなど、安全を確保してから活動を実施していました。準備運動では音楽に乗って声を出し活気があふれた中で、単元の特性に合った動的ストレッチやドリル運動等を行い、けがの防止にもつながっていました。

#### 「自分で取り組む」

児童がチームの課題をよく把握し、タスクゲームを選択する根拠をもって取り組むことができていました。教師が各チームの課題や傾向をよく把握しており、タイミングよくアドバイスを伝えていました。実際のタスクゲームでは、課題解決に向けて協力して活動する姿が見られました。

### 授業者のコメント(今後の目標や目指す授業について)

児童一人一人が課題を明確にもち、仲間との対話を通して解決を図る主体的・協働的な授業を目指します。学習を通して、一人でも多くの児童が笑顔になり、運動が大好きな児童が増えるようにすることで、千葉の未来を創る「人」の育成の一助となるようにします。



未来をつくる！若手の先生方の実践を紹介します！

## 新星キラリ！みんなが輝く授業力アッププロジェクト



岩田ひかる  
先生

佐倉市立  
染井野  
小学校

経験年数 5年  
(令和7年度末時点)

### 授業者のコメント(授業を工夫した点、力を入れた点)

「友達の道具と比べたり、交流し合ったりする活動を通して、道具をよりよく改良していく」という視点で授業を構想しました。工場(作る場)とおたためしコーナー(試す場)を設け、児童が何度も試行錯誤できるようにするとともに、様々な材料を自由に選んで使えるよう場の設定を工夫しました。

《URL》 <https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/kj-hokusou/shidoushitsu/documents/2026kirari02.pdf>

学習指導案  
はこちら



小1年 生活 「なつとなかよし」

本時の目標

○道具を改良して遊ぶ活動を通して、友達の道具と比べたり交流し合ったりして友達の道具のよさに気付くとともに、道具を作り直したりとばし方を変えたりしようとしている。

### 授業を参観した指導主事から

実践モデルプログラムの観点から

#### 「学習前」

単元を通して身に付けさせたい力をもとに、児童の実態を踏まえながら、思いや願いを大切にしたい計画を工夫されていました。また、活動場面では、児童の気付きが高まるように、十分な活動時間の確保と試行錯誤や表現活動の場を工夫していました。

#### 「自分で取り組む」

本時の目標である「ひみつどうぐのかいりょう」を目指して、「もっと〇〇なしゃぼんだま」を飛ばせるように、子供の思いや願いに合わせた材料の工夫や、試せる場を工夫していました。また、活動の際に友達との意見共有を生かしながら、一人一人の気付きが高まるように進めていました。

### 授業者のコメント(今後の目標や目指す授業について)

学ぶことが楽しいと感じられる授業を目指しています。また、学んだことを生かしたり、「もっと知りたい」と思えたりするような活動を取り入れたいと考えています。児童一人一人の成長につながる授業となるよう、頑張ります。



未来をつくる！若手の先生方の実践を紹介します！

## 新星キラリ！みんなが輝く授業力アッププロジェクト



石井かおり  
先生  
成田市立  
平成小学校

経験年数 7年  
(令和7年度末時点)

### 授業者のコメント(授業を工夫した点、力を入れた点)

児童が物語を「読みたい」「伝えたい」という意欲をもって活動できるように、ワークシートや教室掲示を工夫しました。場面ごとに主人公の心情を色で表し、心情の変化を把握しやすいようにしたり、場面ごとの出来事や主人公の心情を教室に掲示したりすることで、他の登場人物との関わりで主人公がどのように変化していったのか読み取りやすくしました。

《URL》 <https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/kj-hokusou/shidoushitsu/documents/2026kirari03.pdf>

学習指導案  
はこちら



小2年 国語 心にのこったところをしょうかいし合おう『ないた赤おに』

本時の目標

○場面の様子に着目し、登場人物の行動の理由を考えることができる。

(思考力、判断力、表現力等)

### 授業を参観した指導主事から

実践モデルプログラムの観点から

#### 「自分で取り組む」

音読の場面を多く設定して、今の課題やこれから取り組むことなどを確認しながら進めていました。また、一人が発言すると、教師から「同じ意見の人はいますか？」などと全体に投げかけ、多くの児童が、何らかの形で授業に参加できるように配慮していました。児童は互いの話をうなずきながら聞いており、安心感をもって授業に臨んでいる様子が伝わりました。

#### 「広げ深める」

登場人物の心の動きを、ハートマークに色を塗り分けることで視覚的に伝え合う活動を設定しました。児童は、微妙な心情を、それぞれに様々な色で表し、その理由を本文の叙述に基づいて説明することができました。また、掲示物を活用して学習の経過や見通しを確認しながら、多くの児童の意見を引き出し、深め合うことができました。

### 授業者のコメント(今後の目標や目指す授業について)

全ての児童が、主体的に学習に取り組める授業を目指していきたいです。自分の考えをもち、積極的に友達と考えを伝え合ったり、共有したりできる授業を目指しています。そのために、クラスの実態に合ったワークシートや活動を考えたり、子どもたちの意欲を高められるような単元の導入を工夫したりしたいです。



未来をつくる！若手の先生方の実践を紹介します！

## 新星キラリ！みんなが輝く授業力アッププロジェクト



榊 勇太  
先生

香取市立  
わらびが丘  
小学校

経験年数 9年  
(令和7年度末時点)

### 授業者のコメント(授業を工夫した点、力を入れた点)

運動の得意な児童もそうでない児童も、「楽しい」と感じることでできる授業をしたいと考え、教材研究をしました。主運動につながるサーキット運動を工夫したり、友達と関わる機会を意図的に設けたりすることで、全児童が記録を伸ばすことの楽しさを味わうことができました。

《URL》 <https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/kj-hokusou/shidoushitsu/documents/2026kirari04.pdf>

学習指導案  
はこちら



小4年 体育科 走・跳の運動「高跳び」～みんなでかけようカラフルジャンプの虹～

本時の目標

○虹色カップに向けてチームの得点を伸ばすために、動きのポイントと照らし合わせて課題を見付け、課題に合った場を選び、練習できるようにする。  
(思考力、判断力、表現力等)

### 授業を参観した指導主事から

実践モデルプログラムの観点から

#### 「授業の前に」

運動することの楽しさや喜びを味わう体育学習を目指し、「わかる」と「できる」をつなぐ三段階学習モデル(ホップ・ステップ・ジャンプ)を意識した授業づくりを展開されました。特にホップで扱うウォーミングアップダンス、サーキットが効果的であり、運動に苦手意識をもつ児童を含め、全児童の活動意欲を高めることができました。運動感覚を高めることに効果的でした。

#### 「自分で取り組む」

前時の振り返り、掲示物等が効果的であることから、児童がめあてを設定することができました。その結果、課題に合わせた練習場所を選択し、意図的に取り組むことができました。また、心理的安全性の担保と知識が明確であることから、子どもたちの関わり(励まし合う、教え合う、学び合う、喜び合う)が盛んで、集団として主体的に学習に取り組むことができました。

### 授業者のコメント(今後の目標や目指す授業について)

体育科に限らず、全ての教科において「かかわる」ことを通して、「わかる」と「できる」をつないでいくことのできる授業づくりをしていきます。その為に、児童の実態を適切に把握し、教師も児童も学習の見通しをもち、課題解決に向けてスモールステップで取り組むことのできる授業を目指していきます。



未来をつくる！若手の先生方の実践を紹介します！

## 新星キラリ！みんなが輝く授業力アッププロジェクト



木内 美歩  
先生

香取市立  
瑞穂小学校

経験年数5年  
(令和7年度末時点)

### 授業者のコメント(授業を工夫した点、力を入れた点)

子供たちが自身の願いや思いに近付けるよう、粘り強く試すことができる場と時間を確保して、授業を展開しました。また、試行錯誤の過程では活動時間を区切り、気づきを共有する機会を設けることで、さらに「やってみよう」という意欲が高まるようにしました。

《URL》 <https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/kj-hokusou/shidoushitsu/documents/2026kirari05.pdf>

学習指導案  
はこちら



小1 生活 「なつがやってきた」

本時の目標

○シャボン玉遊びを通して、シャボン玉マシンを今までの作りと比べたり、試したりして、より思いに近づいたシャボン玉のでき方に気づき、何度もシャボン玉マシンを作り変えようとしている。

### 授業を参観した指導主事から

実践モデルプログラムの観点から

#### 「自分で取り組む」

目的とするシャボン玉の違いに応じて、作業机を分け、成分の異なるシャボン液を複数準備するなど、きめ細やかな配慮が随所に見られました。また、授業中に生まれる児童の思いや願いが想定されており、それに対応するための様々な手立ても準備されていました。児童が友達と比較したり、相談したりしながら、粘り強く活動できたのは、その成果だと感じました。

#### 「広げ深める」

授業の中盤に、児童の気づきを共有する場が設けられ、活動にメリハリがありました。また、言葉だけで分かりにくい部分を補う、先生の図示も効果的でした。印象的だったのは、友達や先生の話をしっかり聞ける児童の姿です。この日も、先生が児童の気持ちを引き付ける温かく多彩な言葉掛けがあり、日頃の積み重ねが児童の姿に表れていると感じました。

### 授業者のコメント(今後の目標や目指す授業について)

子供たちがわくわくするような授業を目指していきたいです。周りの先生の授業を参考にしたり、思考ツールやICTを活用したりして、「やってみよう」と思えるきっかけを作りたいと考えています。子供たちも自分自分も、少しでも楽しく学び続けられるようになることが、今後の目標です。



未来をつくる！若手の先生方の実践を紹介します！

## 新星キラリ！みんなが輝く授業カアアッププロジェクト



塚本 愛理  
先生

銚子市立  
清水小学校

経験年数9年  
(令和7年度末時点)

### 授業者のコメント(授業を工夫した点、力を入れた点)

工夫した点は、タブレット端末での心情メーターの活用です。自分の考えをもつことが苦手な児童が、心情メーターを通して自分の気持ちや考えを視覚化できるようにし、自分なりの考えをもてるようにしました。また、発問ごとに心情メーターが変化していく様子に着目したり、他者との対話場面でも活用したりしました。

《URL》 <https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/kj-hokusou/shidoushitsu/documents/2026kirari06.pdf>

学習指導案  
はこちら



小1 道徳 規則の尊重『きいろいベンチ』

本時の目標

○身の回りの公共物や公共の場所を大事に使うことで、自分もみんなも気持ちよく安心して過ごせることを理解し、みんなの物や場所を進んで大事に使おうとする実践意欲と態度を育てる。

### 授業を参観した指導主事から

実践モデルプログラムの観点から

#### 「自分で取り組む」

事前に児童の意識調査を行い、それをもとに授業を構想したり、中心となる発問を作成したりすることで、児童の実態に応じた学習活動を展開していました。また、タブレットを活用し、心情メーターを用いて登場人物の気持ちに迫るとともに、自分なりの解決策を考えられるよう支援していました。

#### 「まとめあげる」

児童の身の回りにある、みんなで使う物の写真を提示しながら、「これからどのように使いたいか」を考えさせ、道徳的な実践につなげる工夫がされていました。教室の背面には、これまで道徳科の時間で学習してきた内容が掲示されており、日常的に道徳の授業を大切にしている様子が伺えました。

### 授業者のコメント(今後の目標や目指す授業について)

児童が安心して自分の考えをもち、他者との対話を通して、多面的・多角的に考えを広げていけるようにすることが目標です。そのために、児童の考えを引き出し、深められるファシリテーターとして、授業づくりに努めていきたいです。



未来をつくる！若手の先生方の実践を紹介します！

## 新星キラリ！みんなが輝く授業力アッププロジェクト



矢羽 勇樹  
先生

四街道市立  
四街道北  
中学校

経年数 6年

(令和7年度末時点)

### 授業者のコメント(授業を工夫した点、力を入れた点)

計測・制御の学習を通して社会的課題を解決するために、問題点を見つけるための視点を生徒にもたせることを心掛けました。導入で基礎的な知識・技能を身に付けさせるとともに、社会的な事例を提示し計測・制御がどんな場面で活用されているのかを生徒にしっかりと考えさせました。

《URL》 <https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/kj-hokusou/shidoushitsu/documents/2026kirari07.pdf>

学習指導案  
はこちら



中3 技術・家庭科

「計測・制御のプログラミングで社会を豊かにしよう」 D 情報の技術3

本時の目標

○問題に応じた適切な計測・制御方法を選択し、プログラミングすることができる。  
(知識及び技能)

### 授業を参観した指導主事から

実践モデルプログラムの観点から

#### 「授業前」

技術分野での学習を通して、社会的課題を解決するという視点を生徒にもたせるために、事例を示し、考えさせる場面を設けていました。

生徒のプログラミングの既習事項について把握した上で、全ての生徒が取り組みやすい教材が準備されていました。毎時間小テストを行い、支援の必要な生徒や苦手意識のある生徒を把握し、机間指導に生かしていました。

#### 「自分で取り組む」

容易な課題から徐々に難易度の高い課題に対して、自らプログラムを組み、動作するなどの成功体験を通し、プログラミングに親しみ、自信をもてるよう工夫されていました。苦手意識のある生徒への手立てとして課題解決プログラミングカードが用意されており、問題解決のヒントが視覚的にわかりやすく示されていました。

### 授業者のコメント(今後の目標や目指す授業について)

技術・家庭科技術分野の授業では、生徒自らが問題を見付け、主体的にそれに取り組むことが重要であると考えています。そのため、本実践だけでなく、中学校3年間を見通し、A~Dの全ての内容において問題を見だし、課題を設定する場面を大事にしていきたいです。